

同志社大学国文学会彙報

一九八八年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会 四月十一日 本学田辺校地知真館二号館

△国文学会総会及び研究発表会 七月三日 本学至誠館会議室

・総会

・研究発表

「黄泉国と根国——その位置と意義」

寺川真知夫氏（同志社女子大学短期大学部助教）

「西行の伊勢移住について——『新古今和歌集』一八四四歌との

関連」

山村孝一氏（本学大学院博士課程後期在学学生）

△講演会 十二月十五日 本学至誠館四番教室

「研究入門」

土橋 寛先生（本学名誉教授）

△同志社国文学三十一号 十二月二十日発行

△同志社大学国文学会会報十六号 三月十日発行

△同志社国文学三十二号 三月二十日発行

一九八八年度卒業論文題目

「古事記」における異人伝承の一考察

——排除と呪福——

藤本佳和

桐壺の巻をめぐる

——「源氏物語」テキストの冒頭の巻として考察——

吉田 尚

「古事記」における一考察

——神々と神話的世界——

井上知己

「枕詞」の音楽性

藤原光裕

「万葉集」卷十六の抒情

福島裕希子

「東歌の性質」

——序詞を通して——

若園千富美

万葉集の鳥

山本浩之

「源氏物語」における葵上の役割

後藤由美

「源氏物語」における賀と宴

大谷恭子

六条御息所形象の意義

——女の苦悩の代弁者として——

櫻井昭子

「源氏物語」における末摘花の「変貌」

多田千尋

二つの宿命を持つ光源氏  
受領の娘、明石の君

高橋 るみ

——その巫女性を中心に——

下川 孝

——作者が明石に託した主張——

和泉 千秋

【雨月物語】「白峯」の構想

【源氏物語】の表現と歌語

西村 茂利

——表現と形式をめぐる——

安達 佳都子

——「賢木」巻野宮の条を中心に——

西村 茂利

——舞踊劇化の方法を通して——

藤井 裕子

【義経記】における遊びの精神

西村 知子

【道成寺物】の展開と意義について

【弁慶】小考

小川 公男

——【用明天王職人鑑】「道成寺現在蛇鱗」【京鹿子娘道成寺】を中心に——

木曾義仲関係説話の発生について

延慶本【平家物語】「横田河原の戦」【義仲拳兵譚】を中

——登場人物の造型を中心として——

陣内 志保

心に——

小木曾 透

浮世草子【好色五人女】における滑稽性

【宇治拾遺物語】について

大西 晃世

十返舎一九と落語

——説話を編纂する編者の視点を追って——

大西 晃世

——【東海道中膝栗毛】を中心にして——

式子内親王に関する謡曲について

塩見 式子

【心中宵庚申】におけるお千代像の造形について

【平家物語】における清盛造型の方法

富田 利夫

——【心中二ツ腹帯】との比較を中心に——

——清盛追悼説話群を中心に——

富田 利夫

【道中亀山断】考

新しい中世の美学の成立

兼好の王朝憧憬と美意識・無常感を考える——

——各段の意味と構成——

川島 範章

山崎 幸子

——直実像の確立——

金 美那

説経【小栗判官】における照手姫の性格について

——【浅茅が宿】の主題と方法——

——手尼女伝説を中心に——

北村 晶子

東海道四谷怪談における鶴屋南北の人間認識

久保 緑

上方子供絵本の説経受容の方法

的野 宣治

——絵本の作られ方を中心に——

「芝居噺」の構成と方法

溝 尻 法子

お七像の形成と変貌

——『伊達娘恋緋鹿子』八百屋の段をめぐる一考察——

向 井 仁 美

『桜姫東文章』の構想と方法

——桜姫の造型をめぐって——

新 川 裕 美

仮名草子『竹齋』

——主人公「竹齋」の人物像について——

西 村 万 寿 美

戯作活動の開始に対する「仕官お構い」の影響

——「根南志具佐」を中心に——

西 澤 啓 子

浄瑠璃執筆における海音の立場

——「心中ニツ腹帯」を通してみた——

大 浦 克 己

近松心中浄瑠璃の特質

——心中場と述懐を手掛かりに——

山 田 有 子

『東海道中膝栗毛』と浄瑠璃

山 崎 由 美 子

『傾城反魂香』成立論

——歌舞伎から浄瑠璃へ——

赤 松 加 枝 子

良寛「月の兔」諸本考

陳 静 佳

『万の文反古』と往来物の比較

福 田 由 佳

井原西鶴『武道伝来記』についての一考察

——特に著者西鶴自身の属する（町人側）より見た武士道の

矛盾を軸として——

権 藤 和 彦

『曾根崎心中』について

——人物考を中心に——

長 谷 川 浩 三

『好色五人女』

——巻一「姿姫路清十郎物語」について—— 林 敬 子

『好色五人女』「中段に見る暦屋物語」における西鶴が描いた

「おさん」 平 井 健 之

近松世話物の男主人公の性格

——『曾根崎心中』の徳兵衛を中心に—— 五十嵐 丈 久

『妹背山婦女庭訓』について

——『役行者大峰桜』との比較をとおして——

今 井 美 奈

寺山修司論

——言葉における抒情性をめぐって—— 小 島 淳 子

「心中天の網島」

——近松の描いた「義理」について——

三品 宮子

「お夏清十郎物語」

——近松と西鶴の比較——

宮脇 晴美

「元服曾我」論攷

——「曾我五郎元服譚」享受史研究のために——

水谷 巨

古典作品における馬

——「小栗判官」をもとに——

森嶋 広子

近松門左衛門「鐘の権三重帷子」

——おさゝもと権三——

西本 浩子

芭蕉における「さび」

歌舞伎「勸進帳」について

小野 真理

「義経千本桜」について

——源九郎狐をめぐって——

大平 明子

「世間胸算用」の方法と主題

——「観音廻り」——

齊藤 美代子

芭蕉発句の花

——「観音廻り」——

瀬川 稚枝子

井筒論

——「観音廻り」——

新宮 謙一郎

芭蕉発句の花

——「観音廻り」——

谷川 玲子

「好色五人女」における創作意図

——巻四「恋草からげし八百屋物語」をめぐって——

渡辺 秀才

「冥途の飛脚」

——時代背景と登場人物の性格分析——

山本 香

「好色一代男」の意義について

「好色五人女」について

——「姿姫路清十郎物語」をめぐって——

「曾根崎心中」論

——「奥の細道」のフィクション性における一考察——

——「曾良日記」の比較から——

「曾根崎心中」

——「観音廻り」をめぐって——

「俊寛」像の推移

——近松の俊寛像を中心として——

「曾根崎心中」の「観音めぐり」について

近松と浄瑠璃について

安田 智子

東 信介

中野 光治郎

塩谷 美樹

東口 明広

西山 直文

寺田 征央

塚尾 安左哲

村田 成至

鷺尾 具子

『それから』論

——自然の愛を求めて——

石川 映子

——念仏宗否定と法華経敬信を中心に——

滝 沢 充

『家』の文体

——その方法と可能性について——

石 倉 恵 美

『浮雲』と言文一致論

——地の文の変化を中心に——

赤 塚 祐 子

田山花袋『蒲団』論

——女学生問題について——

金 村 恭 子

中井英夫『とらんぶ譚』中における狂気と異世界について

明 川 浩 子

『藪の中』

——現代物への移行のなかで——

喜 多 さゆり

大岡昇平『武蔵野夫人』論

——その成立について——

瀧 脇 直 樹

『三四郎』論

——文学と美術の交流——

根 本 加 世

『夢の中の日常』論

——夢の手法を中心として——

郡 司 長 之

『銀河鉄道の夜』

——青色の世界——

岡 西 克 子

『右大臣美朝』論

三浦哲郎『白夜を旅する人々』論

松 林 篤 子

比較論証『さりしとほろ上人傳』

『淡虚集』考

梅 影 恭 子

鏡花の再生

——『草迷宮』の理論——

道 原 潤

『それから』

——代助像とその時代——

柚 木 千 鶴 子

梶井基次郎の文学における生と死

——『冬の日』以後を中心に——

西 村 朋 子

太宰治『斜陽』の主題について

『行人』における孤独

井 口 英 規

『人間失格』論

——父をめぐる——

高 森 英 文

中原中也『在りし日の歌』解題

宮澤賢治の宗教遍歴

吉 沢 慶

「ドグラ・マグラ」における狂気のリアリティーと夢野久作の真意

辻 陽 子

『砂の女』論

——砂の描写方法について——

藪内 芳明

『他人の顔』論

——「共同体思想」の抹殺——

水野 鉦

芥川龍之介『蜃気楼』論

岡本 かよ子

宮沢賢治 童話制作の根底にあるもの

近藤 康

中勘助『提婆達多』論

村山 徹

中島敦『名人傳』論

矢田 達也

——三人の登場人物からの視点——

矢田 達也

程度副詞の諸問題に関する考察

——甚だしい程度の表現を中心に——

勝部 智美

顕在的な遂行発言について

小森 亜紀

現代国語における漢音・呉音について

森根 和代

近代俳句の語彙

柏原 さゆり

現代日本語の動詞語彙の構造

紅野 里史

——英語との対照によって——

紅野 里史

一九八八年度修士論文題目

「こゝろ」論

——漱石文学における「明治の精神」の一考察

木村 功

『国性爺合戦』考

杉本 靖子

『太平記』卷一の特質の論

田中正人

小川未明論

——その戦争文学における文明論を中心に——

張 志東

『日本永代蔵』と中国明代町人題材小説の比較研究

李 均洋

『吾輩は猫である』の「笑い」

王 嵐

——魯迅の『阿Q正伝』を通して——

複合動詞後項とその周辺

南場 尚子

——接尾辞・助動詞・補助動詞との関連をめぐって——

『櫻の實の熟する時』の位置

西田 喜久夫

——改稿過程を視座として——

『内裏艶書歌合』の様式と問答性の生成

小熊 江利子

現代日・韓両言語における漢語の対照研究

——中国語を参照しつつ——

徐 益 煥

初期堀辰雄論

——「眠つてゐる男」を中心に——

槇 山 朋 子

「西鶴の創作意識」

高 本 佳 子

延慶本『平家物語』における平宗盛像の考察

宇 野 陽 美